

あらすじ

ホホーイ。あるところにゴロロという小僧がおったのじゃ。この小僧、実は雷親父の息子、つまり雷小僧だったのじゃが、こやつ、雷が怖くていつも雷親父にしかられ泣いておったのじゃ。なんとも情けない話じゃのう。そのゴロロをいつもなぐさめ、励ましてくれたのが、赤松の精じゃった。この赤松は200歳にもなる立派な大木じゃ。森のことなら何でも知っておる。たぶんわしのことも…。ところが、この赤松があるとき病気にかかってしまったのう。まあ、これだけ長く生きておれば色々あっても仕方がないのじゃがな。森の精、花の精の心配もむなしく、赤松は弱っていくばかりじゃった。しかし赤松は森に生きる物すべての心の支え、倒れられては困るのじゃった。そこで弱虫ゴロロは立ち上がった。かつこうのリサ、リスのアオと共に赤松を救う旅に出たのじゃ。それは楽な旅とは言えなかったが、色々なものと出会い、生き方を知るうちに少しずつ成長していったのじゃ。まあ、わしと出会ったときはまだまだ若造じゃったがのう。一方、森では、姿を消したゴロロに対し、あるうわさが広まっていたのじゃ。そのためゴロロは森のみんなに責められることになってしまうのじゃ。雷親父も出てきて、もう大騒ぎ。どうする、ゴロロ！負けるな、ゴロロ！赤松を救うのじゃ！ホホホのホー。

ふくろう役 5年 近藤千洋(ホーさん)

公演までの ホッフ・ステップ!



台本の読み合わせ



体育館での練習



情熱のご指導



7月5日 円陣「今年の音楽劇も大成功させよう！」



出番を待つ



42人、心ひとつに…

